

# 「自律的活動力」を育む音楽科学習の展開

指導主事 彌永 有香

研究協力員 益城町立飯野小学校 教諭 吉田 真紀

## 1 研究の視点

音楽科の目標の中に「音楽を愛好する心情を育てる」とある。「音楽を愛好する心情を育てる」とは、生涯を通して音楽を愛好し、生活の中に音楽を生かしたり音楽文化に親しんだりする態度を、音楽の学習活動を通して育むということである。

これらを育むためには、主体的に音や音楽にかかわり、自分なりの表現意図を持ったり価値判断したりする学習活動を積み重ねていくことが必要である。

本年度、県立教育センターでは、協働・協調的な学びの充実を手段として、21世紀に求められる資質・能力の育成を目指して研究を行ってきた。音楽科では、特に「自律的活動力」の育成に焦点を当てて研究を進めてきた。主体的な学びを引き出す学習の展開を試みながら、協働・協調的な学びを通して、児童生徒の自律的活動力を育むことが研究の目的である。ここで、自律的活動力を育む協働・協調的な学びが展開するための取組について、3つの視点から述べることとする。

### (1) 視点1について

児童の「学びを引き出す」ために、課題設定の工夫を行った。合唱や合奏での学びを生かし、音楽づくりに取り組む。例えば「学級歌をつくろう」という課題設定により、より思いや意図が込められたものになっていく。学習指導要領に示してある〔共通事項〕の「和音」を学習の軸とし、協働・協調的な学びを通して、最終的な目的である「学級歌」をつくり上げていく。このような課題設定により、児童の「興味・関心・意欲を引き出す」こととした。

また、題材を通してグループ活動を取り入れ、協働・協調的な学びの場を設定する。合唱や合奏の活動では、各パートの旋律や役割について話し合ったり、聴き合ったりするグループ活動、音楽づくりでは、個々の創意工夫を互いに聴き合い、練り上げるグループ活動を組み込むこととした。

### (2) 視点2について

音楽づくりにおいては、つくり上げる過程を児童

自身が実感できるように、前時までに作成した楽譜を掲示し、次の学習への見通しを持たせたり、活動への意欲を高めたりできるように思考過程の可視化を図った。

また、児童自身が考えの変容や伸びを実感することができるような学習シートの工夫を図った。

更に、合唱や合奏をタブレットPCに録画し、客観的に聴いたり、見たりする場を設定し、児童が学びを振り返られるようにする。授業の終末には学習シートに振り返りを記入し、全体場で学びを共有できるようにする。

### (3) 視点3について

学習の流れを確認しながらグループ活動等ができるように、学習過程を掲示しておく。

また、既習事項を掲示しておき、これまでの学習を活用して主体的に課題解決できるようにする。

更に、電子黒板やタブレット等を用いて、授業場面やねらいに応じた効果的なICTの活用を図る。

## 2 研究の実践

検証 小学校第6学年

題材名 「和音の美しさを味わおう」

### (1) 本題材の授業設計

#### ① 本題材のねらいについて

本題材は、合唱や合奏を通して和音や和声の響きの美しさを味わうことをねらいとしている。題材の最後で行う「和音の音で旋律づくり」では、和音の構成音から主旋律となる音を選ぶことができるので比較的容易に創作活動ができるとともに、中学校の創作の学習につながる題材とも言える。

#### ② 児童の実態

対象児童（男子8人、女子7人、計15人）の事前調査によると、音楽の学習への興味関心は比較的高い。友だちと協力して音楽づくりをすることへの楽しさを感じている児童も多い。しかし、楽典的なことへの苦手意識や、創作活動への有用感を感じてい

ない児童も数名見られる。効果的にグループ活動を取り入れながら、音楽づくりの学習についても高めてくことができるようにする。

### ③ 授業構想

【表1】は本題材の授業設計を示したものである。本題材では、合唱、合奏の活動を通して「和音」の響きを味わい、最後には学習したことをもとに学級歌をつくることを伝えることで、見通しと意欲を持たせる。合唱では和音の響きやバランス、合奏ではそれに加えて旋律の重なり方の違いを学習する。これらの活動においては、活動そのものを楽しませながらも楽典的内容を確実におさえるようにする。

旋律づくりでは、学習してきたことを基に、和音に含まれる音を用いて、まずは個人で旋律をつくり、それぞれの作品を持ち寄ってグループ活動で練り上げていく。その際、何度も繰り返し聴いたり、修正したりすることが容易にできるように、タブレットPCを用いる。グループ活動については、グループ編成を工夫し、意見の集約がスムーズにいくようにする。

【表1】 本題材の授業設計

| 次                          | 時 | 学習活動                                             |
|----------------------------|---|--------------------------------------------------|
| 一<br>星<br>の<br>世<br>界      | 1 | 曲全体の感じをつかみ、旋律の動きに気を付けながら主な旋律を歌う。                 |
|                            | 2 | 響きとその移り変わりをタブレットPCで確かめながら、分担した和音のパートごとに歌う。       |
|                            | 3 | 主な旋律とのバランスに気を付けながら、互いの声を聴き合って合唱する。               |
| 二<br>雨<br>の<br>う<br>た      | 4 | 範奏を聴いて曲全体の感じとその構成をつかみ合奏する。                       |
|                            | 5 | 和音の響き、各パートの役割について理解し、パートごとに表現の仕方を工夫して演奏する。       |
|                            | 6 | 主旋律と副旋律の重なり方等バランスに気を付けて演奏し、録音した演奏を聴いてパートごとに振り返る。 |
| 三<br>旋<br>律<br>づ<br>く<br>り | 7 | 創作する曲の構成について知り、歌詞に合うリズムをつくる。(個→グループ)             |
|                            | 8 | 和音に含まれる音やリズムに着目して、まとまりのある旋律に仕上げる。(検証授業)          |
|                            | 9 | 経過音を用いて、よりまとまりのある学級歌になるように仕上げる。(グループ→全体)         |

## (2) 指導の実際

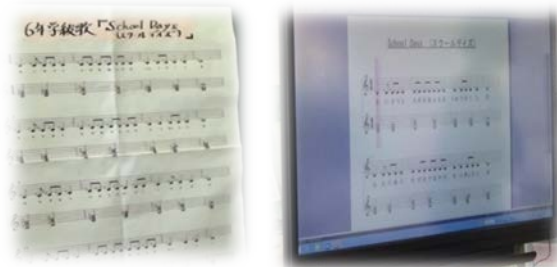
### 本時の目標

和音伴奏の響きとその移り変わりに合うようなまとまりある旋律になるように工夫することができる。

### 検証授業（本時）の授業の流れ

#### 学級歌をつくろう

- 1 前時で創作した作品(リズム)を鑑賞し、課題意識を持つ。【全体】



- 2 めあてを知る。

和音伴奏に合う歌いやすい旋律を考えて学級歌を作ろう。

- 3 つくりたい旋律について、自分の考えを持つ。

【個人】



つくった旋律を弾いてみて、更に自分のイメージに合う旋律になるよう試行錯誤している場面。

【視点2】学習シートを工夫し、自分の思考の変容や伸びが分かるようにする。



- 3 グループごとに旋律づくりをする。【グループ】



まずは、グループ用の学習シートに、話合いで決まった旋律を書き込んでいる場面。

【視点1・3】グループ活動時にタブレットPCを活用し、何度持つくって試すことができるようにする。



#### 4 曲全体のまとまりを考えて旋律を仕上げる。

【全体】



歌いやすいし、とてもいいと思います。

旋律が上がっていくところがどうかな…。もう一回流してください。

#### 5 作り上げた曲を全体で歌い、振り返る。

【全体・個人】



自分たちで音を組み合わせせて歌をつくるのが楽しかったです。

#### グループ活動の話合いの内容

(一部抜粋)

A ここからここに上がるのが難しい。

B 歌ってみらんとわからん。

(2回目, 3回目音を流す。)

A ここが難しい。

(楽譜を指しながら)

C そこだけ変えてみる?

B 近い音がいいんじゃない?

A ファーファドレにする?

(タブレット端末に入力してみる)

(旋律を流してみる。)

A こっちの方が歌いやすい。

(T どうだった? 歌えそう?)

A これでいい?

B ここらへんちょっと変えた方がいいんじゃない?

(T 歌ってみて歌いやすいかだよ。)

A じゃあ、歌ってね。

(最終的にはファーファファファレに変わっている。)

上は抽出したグループの話合いの内容を示したものである。黄色で示している部分は本時のめあてにある「歌いやすい旋律」(音のつながり・音がとびすぎない等)になっているかについて迫っている内容を筆者が示したものである。

【図1】学習シートの工夫

☆リズムに合わせて旋律を作ろう。

前 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

後 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

☆班で決まった旋律を書こう。

☆チャレンジしてみよう。(楽譜を写す)

前と後でどのような変容があったかが分かる。

個人の考え、グループで協力して作り上げた旋律、それを楽譜に書いたもの(チャレンジ)という授業の流れが見える。

学習シート【図1】においては最初に考えた旋律、試行錯誤した後の旋律が残るものにした。つくった旋律をキーボードで弾くことで客観的に聴き、「歌いやすい」かどうかの視点をもとに、より自分の思いに合う旋律にしていた。

更にグループで練り上げ、最終的に決定した旋律を書き込み、グループ内の誰の旋律がどこに生かされているかが分かるようにした。

### (3) 検証結果と考察

#### ① 意識調査の結果から

検証授業前と検証授業後の飯野小学校6年生15人の児童を対象に実施した音楽科の授業における意識調査の結果を比較し、検証前後で意識の変容を分析した。検証前後の調査結果を比較すると、16項目のうち13項目で数値の上昇が見られた。

【表2】意識調査の結果

|           | 質問項目(4件法)                                              | 事前   | 事後   |
|-----------|--------------------------------------------------------|------|------|
| ふだんの生活    | ①ふだんの生活で歌をうたうことは好きである。                                 | 3.33 | 3.57 |
|           | ②ふだんの生活で楽器を演奏することは好きである。                               | 3.6  | 3.64 |
|           | ③ふだんの生活で曲を聴くことは好きである。                                  | 3.67 | 3.57 |
|           | ④ふだんの生活で音楽をつくることは好きである。                                | 2.6  | 3.29 |
| 音楽の授業全体   | ⑤音楽を表現するとき、自分の思いや考えが伝えられるように積極的にとりくんでいる。               | 3.13 | 3.36 |
|           | ⑥グループ活動をするとき、友達と協力してとりくんでいる。                           | 3.8  | 3.79 |
|           | ⑦グループ活動をするとき、友達の意見や考えが参考になる。                           | 3.73 | 3.79 |
| 成就感・必要感   | ⑧音楽の学習は好きである。                                          | 3.2  | 3.57 |
|           | ⑨音楽の授業は楽しい。                                            | 3.53 | 3.64 |
|           | ⑩音楽の学習をすれば、明るく楽しい生活ができるようになる。                          | 2.93 | 3.07 |
| 音楽づくりに関して | ⑪音楽をつくる活動のとき、自分のイメージや思い、場面や様子などを音や音楽で表すことは好きである。       | 2.87 | 3.36 |
|           | ⑫音楽をつくる活動のとき、自由な発想を生かしていろいろな音楽表現を楽しんでいる。               | 2.8  | 3.43 |
|           | ⑬音楽をつくる活動のとき、友達と一緒に活動することを楽しんでいる。                      | 3.33 | 3.79 |
|           | ⑭ふだんの生活の中で音楽をつくってみたいと思う。                               | 2.63 | 3    |
|           | ⑮ふだんの生活の中で音楽(簡単な旋律など)をつくることがある。                        | 3.27 | 3.07 |
|           | ⑯ふだんの生活の中で音楽(簡単なリズムや旋律など)をつくるとき、音楽の授業で学んだことを生かそうとしている。 | 2.93 | 3    |

特に、音楽づくりに関する項目のうち、「④ふだんの生活で音楽をつくることは好きである。」「⑪音楽をつくる活動のとき、自分のイメージや思い、場面や様子などを音や言葉などで表すことが好きである。」「⑫自由な発想を生かしていろいろな音楽表現を楽しんでいる。」については事前と比較して大きく上昇した。これは、課題設定の工夫やグループ活動、効果的なICT活用により、主体的に音楽づくりに取り組むことができた成果であると考えられる。

また、「ふだんの生活の中で音楽をつくることがある。」に関しては事後の数値が下がっているが、その理由として、「本格的に音楽づくりをしてみると、音楽づくりというものが本当はどんなもんだったかというのが分かったから。」「鼻歌とかではなく音楽づくりがどのようなものか分かり、その難しさが分か

ったから。」「タブレットを使えばできるけど、一人となると難しい。」といった内容が挙げられた。

今回は「学級歌をつくろう」という課題設定で、協働しながら、ICTを活用しながらの活動であり、このような結果につながったと考える。

#### ② 学習シートの記述から

- みんなと意見を出し合ってきれいな音楽になったから良かった。
- 音を選ぶのが楽しかった。みんなで協力できたので良かった。
- みんなで歌ったり、協力したりして学級歌ができてうれしかった。
- みんなの考えた音を合わせて曲をつくって歌ったのが楽しかった。
- みんなで協力してできたからいい学級歌をつくれた。楽しかった。
- みんなで歌ったり、アイディアを出したりしながら協力できてとても楽しい授業だった。学級歌ができてうれしかった。
- みんなで協力して、楽譜がつくれて楽しかったです。意見を出しながら、楽譜が作られて良かった。
- 音を組み合わせる歌をつくるのが楽しかった。
- 今日の感想はみんなが来てくれたけどなかなか（意見が）言いにくかったけどおもしろかったです。とっても音色が良かったです。
- 今日の勉強で音をつなげられるようにするのが難しかった。
- 歌いやすいように音階の上下が少ないように工夫できて良かった。
- 初めて歌をつくれたのであまり分らなかったけどきれいにできたので良かったです。
- 和音は大切だと思った。和音を使うのはいいと思った。
- 今日の授業では、旋律がすべて整い学級歌が正式に完成したので良かったです。
- 旋律やリズムが歌とあっていたのですごいと思ったし、みんなと話合ったりして学級歌をつくれてうれしかったし、タブレットのおかげでいつもよりも分かりやすくて良かったから良かったです。

検証授業において使用した学習シートの記述内容の分析を行った。枠内の黄色で示した部分は主体的に旋律づくりに関わっていることが分かる内容について筆者が示したものである。

「音」「歌」「旋律」「組合せ」「音をつなげる」「歌いやすさ」「音階の上下」「和音」「リズム」といった〔共通事項〕を中心とした音楽に関する言葉が多く現れている。これは、題材全体を通して学習してきたことを生かし「学級歌をつくろう」という目標に向かって児童が主体的に音楽づくりに取り組み、音や音楽に向き合った結果だと考える。

最初に考えた旋律を客観的に聴くことで、より自分の思いを生かした旋律へと試行錯誤する過程があ

り、更に一人一人の考えを持ち寄ってグループ活動を行うという学習の形態、学習シートの工夫等により、学びが高まったものとする。

更に、「みんなで」「協力して」、(学級歌をつくりあげることができて)「うれしい」「楽しい」「良かった」といった言葉も多く見られ、協働・協調的な学びを通して、関係形成も育まれていることが分かる。

### 3 研究のまとめ

今回、「自律的活動力」に焦点を当てた研究を行ってきた。3つの視点を基に、協働・協調的な学習の展開を図ることで、その有用性を確認することができた。

21世紀に求められる資質・能力の中で、「関係形成」は音楽科のどの活動をする上でも必要になってくる。しかし、協働・協調的な学びを通して「自分」がどのような思いや意図を持ち、音や音楽と向き合ったか、どのように価値判断を行ったか、といった自律的活動力を育むことは、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てることにつながっていくと考える。

今後も、児童生徒が楽しく音楽にかかわり、音楽を学習する喜びを得るようにすることをいっそう重視するとともに、学校で学んだ音楽を家庭や地域でより楽しめるようにするなど、音楽を生活の中に生かしていく態度を育むことができる授業を創造していきたいと考える。

### 《参考文献》

- ・文部科学省平成20年8月  
『小学校学習指導要領解説音楽編』
- ・国立教育政策研究所 平成23年11月  
『評価基準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料（小学校 音楽）』